

理科だより

発行

平成21年6月30日

編集 RIKADAISUKIMAN

高師小僧



いきなりですが、「高師小僧」という鉱物から話を始めます。木の根にくっついていて、人形のような形をしている湯鉄鉱（鉄の鉱物）です。愛知県豊橋市の高師原地方から産するので、高師小僧という名がついているようです。先日、新宿で開催されていたミネラルフェアで見つけました。

「温故知新」と言われますが、実はこの鉱物は、私が小学生の時に買ってもらった「岩石と鉱物の図鑑」にしっかりと記載されています。昭和48年に初版となっていますので、相当古いのですが、「日本式双晶」とか、ヒスイとか、ここに登場する岩石鉱物のほとんどが出ています。

最近出版されている小学生向けの図鑑を見ると、そこまで詳しくありませんが、少なくとも中高生が学校で使っているテキストよりはずっと詳しいと思います。

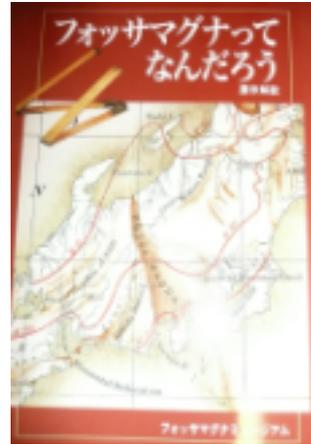
自分自身が小学生の時に仕入れた知識なので、今更話題にするの

はどうかなと思っていると、意外にも「そんなの知らないよ。初めて聞いたよ」という人が多いのでそんなものなのかなと思うようになりました。大切なのは、小学生の図鑑でも、本物の知識をしっかりと載せておく事ではないでしょうか。「こんなテストに出ないし、必要ない」として書かないとしたら、大人が情報を操作していることとなります。正しく覚えていれば、何十年経ってもそれが知識として役に立つと思われ

ます。理科便り第一号に博物館の「日本式双晶」を紹介しましたが、今回、小さいものを手に入れました。

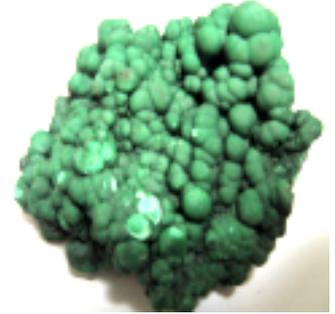


二つの結晶が規則正しくくっついてできたものを双晶と言います。明治時代に山梨県乙女高山から、この双晶を持った水晶がたくさん出て、日本式双晶と呼ばれるようになったようです。珍しいので、このような小さいものでもかなり良い値でした。



今年はヒスイの当たり年かな？と思うくらい、あちこちでヒスイに出くわします。理科便り15号でも紹介しましたが、また糸魚川でのヒスイのブロックが手に入りました。普通の石と違って、ずっしりと重いです。（密度が大きい）マンマー産のヒスイもあるので

すが、糸魚川のものが硬いようです。これで勾玉を作っている人とも話をしました。



孔雀石
銅鉱石です。銅がさびて緑青（ろくしょう）になっています。



桜石
ホルンフェルスの中に良く見られる桜石は、堇青石（きんせいせき）の一種で、六角の柱のようで、断面が桜に似ています。



黒雲母



赤メノウ